

葉山災害ボランティアネットワーク
HSVΝ
平成 29 年度総会 議案書

日時 平成 29 年 5 月 27 日(土)午後1時 30 分より

場所 葉山町消防署 地下講堂

第 1 号議案 平成 28 年度活動報告及び
同収支報告並びに会計監査報告

第 2 号議案 平成 29 年度活動計画(案)

第 3 号議案 平成 29 年度予算(案)

第 4 号議案 役員改選(案)

【第1号議案】平成28年度活動報告、同収支報告及び会計監査報告

平成28年度活動報告

平成28年度、活動の基本重点事項として次の4点を掲げました。

＜基本重点事項＞

1. 会員のスキルアップと知識体験の共有
2. 正会員の発掘と賛助会員の拡大による人的・財政的基盤の強化
3. 関係機関・団体との連携強化と認識の共有
4. 会員の交流・参加機会の充実と結束の強化

以下、年初に掲げた活動計画について、実施した活動の概容を報告します。

1. 学習・訓練活動について

○「災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」に基づく訓練活動

◇第4回ボランティアセンター設置運営訓練（H29年2月19日）

- ・「ゲームde体験 災害ボランティア」のキャッチコピーで広報
- ・葉山社協と共催で、『災害ボランティアセンター・ロールプレイング』訓練を行いました。ボランティアセンターの業務の流れを再現し、ボランティアセンターの各機能がどのように関連して、相互に補い合っているのかということを感じていただきました。
- ・参加者は、会員のほか、地域団体、行政防災関係者など、今までで最大の53名でした。
- ・今回の訓練により見えてきた課題や改善すべき点は、「葉山災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」に反映するよう、現在、準備を進めています。

○葉山の地域に適したボランティアセンター運営とは何かを探る活動

◇『葉山災害ボランティアセンターポータルサイト』の開発と充実を図りました。

- ・“災害が起きた時に、＜信頼できる情報＞をいかに共有するのか”をテーマとするサイトです。保管する情報量の充実に努めました。
- ・熊本地震、北海道・東北豪雨の被災後の各地の災害ボランティアセンターの概況を臨時掲示板に掲示し、被災地の他の情報支援サイトと連携しました。
- ・従来の通常時サイトに加えて、発災時サンプル（2月の設置運営訓練の被災シナリオと整合）サイトを加えました。
- ・H27年9月開設より、アクセス数16000回となり、現在は防災科研の事例紹介のサイトの1つになっています。

◇「葉山をもっとよく知ることが非常時の備えになる『葉山まちあるき』」を昨年度に引き続き実施し、地域理解への掘り下げと地域住民との交流を図りました。

・「葉山まちあるきNo.4:堀内探検」（6月4日）

旗立山→葉山港→諏訪神社→清浄寺→堀内会館→木の下会館→葉山教会下→防災広場→あじさい公園→光徳寺→真名瀬会館→芝崎児童館。
堀内地区の地勢、防災倉庫、一時避難所等を確認しました。また、探索中は三ヶ浦町内会長の説明を聞きながら、また地域住民との交流も楽しみました。14名参加。終了後、被災地支援バーベキュー懇親会を行いました。18名参加。

・「葉山まちあるきNo.5:一色パート①(山側)探検」（10月8日）

葉山緑地→エコーハイツ→一色町民いこいの家→保健センター→一色小学校→一色岡会館→一色岡公園・一色第2岡会館→パーゴラ公園→刀根山公園→実教寺→花の木公園
一色地区を2回に分け、今回は山側の地勢、防災倉庫避難広場整備状況等を確認しました。エコーハイツではエコー会、一色岡会館では、一色台自治会、一色第一町内会、一色第二町内会役員と意見交換を行い、探索中も地域住民との交流を行いました。23名参加。

・「葉山まちあるきNo.6:一色パート②(海側)探検」（12月3日）

ハックドラッグ→一色台→下山川→主馬寮公園→玉蔵院→森山神社→一色会館→菖蒲沢→山口蓬春記念館→県立近代美術館葉山→ルックハイツ葉山→計画避難路→芝崎
一色台から一色浜地区（一色の海側）の地勢、防災倉庫避難広場整備状況等を確認しました。

また、旧役場前広場で一色第四町内会長の説明を、森山神社では、一色第五町内会役員の説明を受け、その後、地区の案内をしていただきました。14 名参加。

○ボランティアコーディネーター等養成研修にメンバーを派遣する活動

◇金沢区災害ネットワーク「熊本地震から学ぶ私たちにできること」シンポジウム(7 月 9 日)4 名参加。

◇防災の日キャンペーン「Twitter de アクション」に参加。(8 月 27 日～9 月 11 日)2 名参加。

- ・DITS を使った情報発信訓練

◇ビッグレスキューかながわ(神奈川県・横須賀市合同総合防災訓練)(9 月 11 日)1 名参加。

- ・情報収集訓練

◇H28 年度湘南ブロック社協連絡協議会研修会「災害図上訓練プログラム」(1 月 19 日)3 名参加。

- ・(三浦半島断層群の地震による被害と VC が機能するための要件)講演と図上訓練

◇かながわ災害情報連絡会「災害 VC キット体験訓練」(2月21日)2名参加。

- ・防災科研開発のインターネットによる災害ボランティアセンター運用支援キットの体験

◇逗子市及び関係団体共催「災害救援ボランティアセンター設置運営訓練」(3 月 12 日) 2 名参加。

- ・HSVN の訓練に参加した逗子のスタッフが、葉山方式を参考にして、ロールプレイングで実施

◇かながわ 311 ネットワーク「防災教育ファシリテーター養成」研修に 2 名参加。

2. 被災地支援活動について

○葉山町近隣の災害ボランティア活動団体と連携し、町民の被災地支援経験の機会を増やす活動

◇「28 年 8 月北海道・東北豪雨」被災地復旧支援活動

- ・岩手県岩泉町災害ボランティアセンターへ支援

- 9 月 20 日～21 日実施(岩泉町安家地区へ)

- 2 名が、岩手県社協災害ボラバスに便乗参加しました。

- ・岩泉町は町内の半分近くの 2,000 戸以上が被災、町は広く(東京 23 区の 1.5 倍)、被災に対応が追い付かず(町職員 189 名、社協職員 4 名)県や他市町村の支援を受けていました。

- ・交通遮断され、9 月 19 日開通した地区。流木、破壊家屋、折れた電柱など生々しい傷跡が残る状況で、泥だし・がれき撤去など活動。



◇3.11 被災地復旧応援活動

- ・「100 万人の線香花火ナイト」

- 8 月 11 日、森戸海岸。竹の灯りで線香花火に犠牲者の冥福を祈り点火。参加者 50 名。

- ・「3 月 11 日“葉山語り場 あの日を忘れない”」

- H29 年 3 月 11 日元町会館。あの日を語り継ぐとともに、地震発生時刻に合わせ犠牲者のご冥福を祈り黙祷しました。

- 3 月 11 日鎮魂の線香花火ナイト 19 時に各自参加できるよう、線香花火を配布。

- また、「子ども安全まちづくりパートナーズ」から講師を招き、一番近い避難場所まで何分で逃げられるかを考える「逃げ地図」作りを行いました。参加者 25 名。

- 寄贈された古書は、163 冊(株)バリューブックスに送付し 3,643 円が 4 月 10 日「寄付金」として、岩手県陸前高田市の『図書館ゆめプロジェクト』に入金されました。また、古 T シャツは、103 枚逗子市社会福祉協議会で集められた T シャツと一緒に宮城県女川町に送付しました。

○HSVN の会員が集う“葉山語り場”活動

◇“葉山語り場”(9 月 17 日)

- ・「まち歩き図上訓練」、一色地域。参加者 8 名。

◇“葉山語り場”(H29 年 3 月 11 日)

- ・東日本大震災から 6 年目の日に「あの日を忘れない」ための語り場。被災地の「ほっこり茶」、飴でおもてなし。震災関連資料、図書の展示、被災地の物品販、買い物にきた人や観光客も足をとめて話を。参加者 30 名。

3. 広報活動について

○町内の各種イベント会場で、HSVN の活動を紹介

◇第 41 回葉山ふるさとひろば（10 月 9 日）

- ・役場庁舎正面玄関前で HSVN の活動写真等のパネル展示をしました。また、松かさでクリスマスツリーを作るキッズコーナーを設け、地域住民との交流に努めました。
- ・(株)モンベルの協賛を得て、簡易テントを張って、「テントで快適な避難生活を送るには」のデモンストレーションを行いました。

◇ビッグ葉山マーケット（10 月 30 日）

- ・元町の横浜銀行駐車場で行われた元町商店会主催のフリーマーケット会場で、HSVN の活動写真等パネル展示をして、チラシを配布するなどの広報活動を行いました。

◇葉山町総合防災訓練（11 月 12 日）

- ・訓練では、一色小体育館を使い「災害避難所お泊り訓練」が催され、HSVN では防災士会、赤十字奉仕団と共同で夜間テント設営訓練を行うほか、防災協力団体として活動を紹介しました。

◇逗子災害ボランティアネットワーク総会（5 月 21 日）、横須賀災害ボランティアネットワーク総会（5 月 20 日）、東伏見団地防災懇親会（10 月 30 日）、上山口町内会防災訓練（3 月 18 日）に出席し、HSVN 活動を紹介しました。

◇湘南ビーチ FM のタウンピックアップに HSVN の活動と、「ゲーム de 体験災害ボランティア」の広報を行いました。（H29 年 2 月 9 日）

◇ボランティアセンター設置運営訓練「ゲーム de 体験災害ボランティア」にジェイコム取材がありデイリーニュースで放送されました。（H29 年 2 月 19 日）

○地域交流会

◇葉山町、逗子市、横浜市金沢区、横須賀市の災害支援ボランティア団体との交流会（4 月 20 日）。

- ・葉山町と隣接する地域で活動する災害ボランティア団体、一部社会福祉協議会が集まって初めての交流会を行い、地域が抱える課題や問題点などについて意見交換し、広域連携に向けた第一歩になりました。

◇湘南ビーチ FM と災害時における情報発信について意見交換

- ・災害発生時のボランティアセンター関連の情報共有に向け、社協を通して話し合いを進めることとなり、ビーチ FM がカバーしている逗子の関係団体とも連携してさらに意見交換を深めていくことを確認しました。

4. その他活動報告

◇平成 28 年度 HSVN 総会（5 月 22 日）

- ・H27 年度決算の承認、H28 年度活動計画と予算の承認、役員一部改選を行ないました。
- ・ジオ神奈川代表の蟹江康光さんによる記念講演「三浦半島断層群 2016」を行いました。

◇運営委員会（拡大運営委員会を含む）

- ・11 回開催し、活動の推進や会員の交流等の企画について意見交換を図りました。

◇『災害ボランティアセンター連携会議』

- ・2 回参加。行政、社協等と情報の共有を行いました。

◇KSVN（神奈川災害ボランティアネットワーク）運営委員会には当会の丸恭輔顧問が理事として参加し、地域団体との交流を図りました。

◇津波研究最前線講演会（11 月 11 日）を後援

- ・「東日本大震災の教訓と今後の防災」をテーマに講演会が開催され、後援しました。

5. 会員数

H28 年度末の組織人員は、正会員 36 名、賛助会員 17 名。

以上

謝辞 当会の被災地緊急支援活動は、「三留モーター商会」様、「ラーメンあじ平」様からの協賛をいただいて活動しています。ご厚意に多大なる謝意を表します。

葉山災害ボランティアネットワーク 平成28年度収支報告書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

科 目	28年度予算 (¥)	28年度実績 (¥)	摘 要
I 収入の部			
1) 会費	50,000	50,000	会員50名×@1,000
2) 助成金	100,000	100,000	市民活動助成金
3) 参加費	0	0	
4) 寄付金	30,000	266,130	全国社協、三留モーター、あじへい、募金箱
5) 繰越金	141,733	141,733	前年度より
6) 預金利息	50	1	
収入合計	321,783	557,864	全国社協の寄付金を除くと¥303,462
II 支出の部			
1 事業費			
1) ボランティアコーディネータ 養成研修費	20,000	16,000	防災教育ファシリテータ講座ほか
2) ボランティア訓練講師謝礼	30,000	10,000	講師謝礼
3) ボランティアセンター 運営訓練	30,000	141,309	訓練実施に係る諸費用、訓練備品など
4) ボラバス派遣関係費	0	0	
5) 支援プロジェクト関係費	50,000	0	現地調査費用など
6) 広報関係印刷費	10,000	12,050	活動に伴うチラシなどの印刷
7) ネット広報費		0	
事業費計	140,000	179,359	
2 管理費			
1) 加盟会費	13,000	18,000	KSVN、社協、ふるさとひろば
2) イベント保険	0	0	
管理費計	13,000	18,000	
3 事務費			
1) 会議費	10,000	15,773	会議、各種催し参加時の飲み物、弁当など
2) 交通費	10,000	0	
3) 通信費	20,000	17,872	往復はがき、切手、宅配便など
4) 消耗品費	20,000	11,062	印刷用紙、パウチフィルムなど
5) 機材購入費	10,000	20,000	のぼり旗作成
6) 雑費	20,000	11,883	資料、線香花火、自販機飲み物など
事務費計	90,000	76,590	
4 災害支援準備金	50,000	30,000	岩泉町における支援活動一部助成（2名）
5 繰越金	23,783	253,915	期中の全国社協からの臨時的寄付金に相当
支出合計	321,783	557,864	繰越しを除くと¥303,949

平成 29 年 4 月 30 日

会計監査報告書

葉山災害ボランティアネットワーク 代表 柿本 秀二 殿

会計監査

宮田 路子



会計監査

松元 美恵



葉山災害ボランティアネットワークの平成 28 年度会計監査を下記のとおり実施しましたので報告します。

記

監査実施日

平成 29 年 4 月 30 日

監査書類

平成 28 年度収支会計報告書 および 関係書類

監査結果

上記の書類について、厳正に監査を行った結果、公正、妥当に処理されていることを認めます。

以上

【第 2 号議案】 平成 29 年度活動計画(案)

<活動方針>

3.11 の地震・津波災害の悲しみから 6 年が経過しましたが、この間も、東日本太平洋沿岸では余震が絶え間なく発生し、昨年春の熊本地震、10 月の鳥取中部地震など日本各地で地震が発生しております。豪雨による被害も頻発し、平成 25 年 7 月西伊豆豪雨、同年 10 月伊豆大島豪雨、平成 26 年 8 月広島豪雨、平成 27 年 9 月関東・東北豪雨、28 年 8 月北海道・東北豪雨など、毎年のように発生しています。

また、平成 27 年度に改訂された「葉山町地域防災計画」によると、今後 30 年以内に発生する可能性の高い三浦半島断層群の地震をはじめ南関東地震、東海地震による被害が想定され、発災時の災害ボランティアの役割はますます重要となっています。

こうした点を踏まえ、私たちは、災害の発生を未然に防ぐことはできませんが、災害から立ち直る活動に参加するという繰り返しの学習を通じて、被害の軽減を図る道を探す努力を続けて行こうと決意しています。

大規模災害にあつては、被災者のニーズを把握し、支援ボランティアとの調整を図る“災害ボランティアセンター(VC)”の設置が求められます。昨年の熊本地震でも、迅速に、かつ的確に VC が設置されることの重要性が改めて認識されました。

葉山が被災した場合、VC の運営は、社協の要請に基づき、HSV N が主体的に協力して行うことになりますので、この設置運営訓練については、最大の緊張感を持って励む必要があります。また同時に、今後の課題としては、従来の訓練では手つかずであった障がい者、外国人に対応した VC 運営も視野に入れていく必要があると考えております。

混乱の状況下で本団体が機能するためには、行政、社協、各種ボランティア団体、町内会、自治会等と常に顔の見える関係に居なければなりませんので、昨年同様、総ての活動を、地域との交流の更なる拡大と深化を意識した内容に位置付けます。

なお、災害の発生は予測できませんが、発生した場合に、すみやかに援助に駆け付けることができるように、災害支援活動準備金 の積み立ても引き続き行います。

＜基本重点事項＞

1. 会員のスキルアップと知識体験の共有
2. 正会員の発掘と賛助会員の拡大による人的・財政的基盤の強化
3. 関係機関・団体との連携強化と認識の共有
4. 会員の交流・参加機会の充実と結束の強化

＜具体的活動内容＞

○学習・訓練活動計画

◇VC 運営要員の底辺拡大を図るとともに、会員のスキルアップを図る

・町内会、町内ボランティア団体のメンバーに対し、VC 設置運営訓練への参加を重点的に呼びかけるとともに、HSVN への入会を勧誘する。

・「葉山まちあるき」、「葉山語り場」などのオープンな野外活動とミニ訓練を行う中で、地域住民との交流を深め、HSVN への理解を促進しつつ、町内の隅々まで把握できるように自らのスキルの向上を図る。

・VC 設置運営訓練を通じ、ボランティアセンターの運営を担いえるボランティアコーディネーターのスキルアップを図るために、春の訓練に加え、秋に会員対象のスキルアップ訓練をおこなう。

・引き続き「葉山災害ボランティアセンターポータルサイト」の運営を行いつつ、発災時の情報ポータルサイトの準備と運営体制を整備する。また IT スキルを持った新しい人材のリクルートを進めつつ、会員の IT スキルを高める施策も考えていきたい。

◇外部機関が主催するボランティアコーディネーター養成研修にメンバーを派遣し、習得した知識をもとに、葉山自前のボランティアコーディネーターの養成に役立てる。

◇「災害ボランティアセンター運営マニュアル」の点検、見直しを行なう。

○被災地支援活動計画

◇葉山町近隣自治体の災害ボランティア活動団体と連携し、町民の被災地支援経験の機会を増やす事業を行う。

◇災害に機敏に対応できる支援体制として、“災害支援活動準備金”を積み立てる。

◇HSVN の会員が集う“葉山語り場”の内容を充実させ、情報の紹介や会員の親睦を図り、災害ボランティアネットワーク造りを行なう。

○広報活動計画

◇防災訓練の催し会場等で、災害ボランティアセンターの役割の紹介を行なう。

◇町内の各種イベント会場で、HSVN の活動を紹介する。

元町商店会フリーマーケット、葉山町総合防災訓練、町内会・自治会の会合

◇HSVN の活動を記録し、ネットなどを通じて紹介する。

○総務活動計画

◇月例運営委員会を開催し、会員相互の交流、意見の交換を図る。

◇『災害ボランティアセンター連携会議』に参加し、行政、社協等と情報の共有を行なう。

以上

【第3号議案】平成29年度予算(案)

葉山災害ボランティアネットワーク 平成29年度予算(案) 平成29年4月1日～平成30年3月31日

科 目	28年度 予算(¥)	29年度 予算(¥)	摘 要
I 収入の部			
1)会費	50,000	50,000	会員50名×@1,000
2)助成金	100,000	100,000	年末たすけあい募金助成金
3)参加費		0	
4)寄付金	30,000	10,000	
5)繰越金	141,733	253,915	前年度より繰越し(全国社協の寄付金に相当)
6)預金利息	50	0	
収入合計	321,783	413,915	
II 支出の部			
1 事業費			
1)ボランティアコーディネータ養成研修費	20,000	30,000	ボランティアコーディネーター養成講座など
2)ボランティア訓練講師謝礼	30,000	30,000	講演会、研修など講師謝礼金
3)ボランティアセンター設置運営訓練	30,000	50,000	訓練実施に係る諸費用、訓練備品など
4)ボラバス派遣関係費	0	0	
5)支援プロジェクト関係費	50,000	50,000	
6)広報関係印刷費	10,000	20,000	チラシなど印刷
7)ネット広報費		0	
事業費計	140,000	180,000	
2 管理費			
1)加盟会費	13,000	18,000	KSVN、社協
2)イベント保険	5,000	5,000	
管理費計	18,000	23,000	
3 事務費			
1)会議費	10,000	15,000	
2)交通費	10,000	0	
3)通信費	20,000	20,000	
4)消耗品費	20,000	15,000	
5)機材購入費	10,000	70,000	
6)雑費	20,000	20,000	
事務費計	90,000	140,000	
4 災害支援準備金	50,000	50,000	緊急支援活動にかかわる経費、助成金
5 繰越金	23,783	20,915	
支出合計	321,783	413,915	

【第 4 号議案】 役員改選(案)

平成 29 年度役員を下記のとおりとする。

役職	氏名	
代表	柿本 秀二	留任
副代表	矢嶋 恵子	留任
副代表	西山 利廣	留任
会計	小峰 梅男	留任
幹事	岡村 恭子	留任
幹事	佐藤 文彦	留任
幹事	中村 和雄	留任
幹事	増田 佳恵	留任
幹事	松平 克己	留任
幹事	吉田 見岳	留任
会計監査	宮田 路子	留任
会計監査	松元 美恵	留任
顧問	丸 恭輔	留任

以上



HSVN のぼり旗ができました！



“葉山語り場”、元町会館で適時開催。